

健康とくらしの調査

調査概要					
調査目的	要介護状態になる前の高齢者のリスクや社会参加状況を把握し、地域の抱える課題を特定すること(地域診断)を目的に実施				
調査対象者	自立及び要支援1・2, 総合事業対象者の高齢者				
調査方法	調査地域: 柏市全域 調査方法: 郵送配布 - 郵送回収 調査期間: 令和4年12月5日から令和4年12月26日				
回収状況	発送数	回収数	回収率	有効回答数	有効回答率
	7,000	5,124	73.2%	5,069	72.4%
その他	一般社団法人日本老年学的評価研究機構(JAGES機構)と協力して実施している 「他市町村」は令和4年度の健康とくらしの調査に参加した自治体のうち、同時期に調査を実施した自治体()の平均				

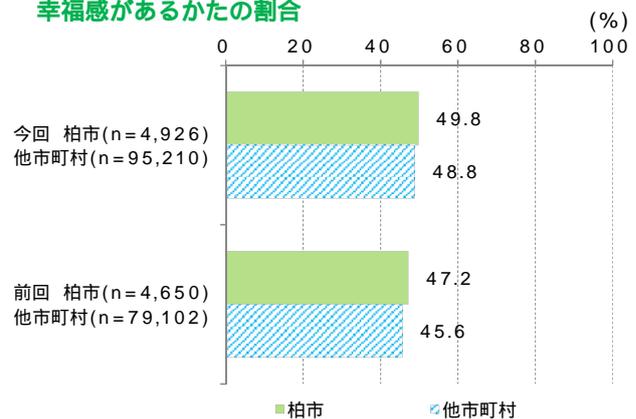
01

幸福感

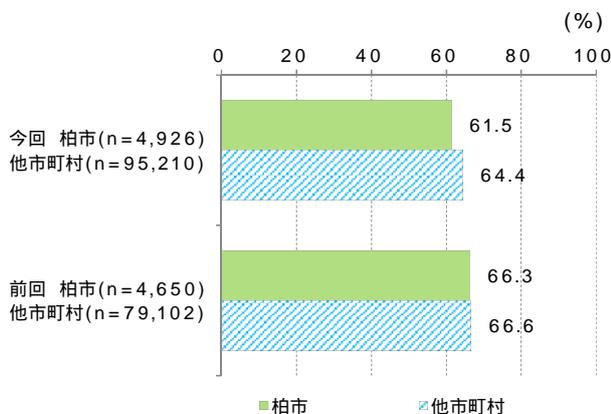
幸福感があるかた(8/10点以上)の割合は49.8%となっており、他市町村と比較すると、今回・前回ともに柏市が多くなっています。

また、前回と比較すると2.6ポイント増加しています。

幸福感があるかたの割合



友人・知人と会う頻度が高いかた(月1回以上)の割合



02

友人・知人と会う頻度

友人・知人と会う頻度が高いかた(月1回以上)の割合は61.5%となっています。

他市町村と比較すると、今回・前回ともに柏市が少なくなっており、特に今回調査では他市町村に比べて2.9ポイント少なくなっています。

また、前回と比較すると4.8ポイント少なくなっており、新型コロナウイルス感染症の影響などがあると考えられます。

七戸町, 六ヶ所村(青森県), 岩沼市(宮城県), 松戸市, 柏市, 四街道市, 睦沢町, 長柄町(千葉県), 町田市, 東村山市(東京都), 横浜市(神奈川県), 新潟市, 十日町市(新潟県), 揖斐広域連合(岐阜県), 名古屋市(愛知県), 神戸市, 西脇市, 丹波篠山市(兵庫県), 生駒市(奈良県), 岩美町(鳥取県)の20 保険者

03

認知症の相談先の認知度

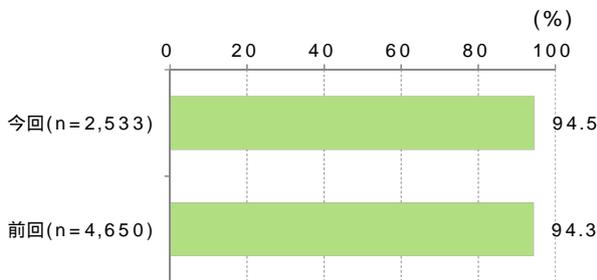
認知症の相談先の認知度について、『知っている』（「よく知っている」、「ある程度知っている」の合計）は21.1%となっています。

前回と比較すると、2.9ポイント少なくなっており、より周知していく必要があると考えられます。

認知症の相談先を知っているかたの割合



身近な相談相手や相談場所があるかたの割合



04

身近な相談相手や相談場所

身近な相談相手や相談場所があるかたの割合は94.5%となっています。

前回との大きな差はみられず、高い水準で推移しています。

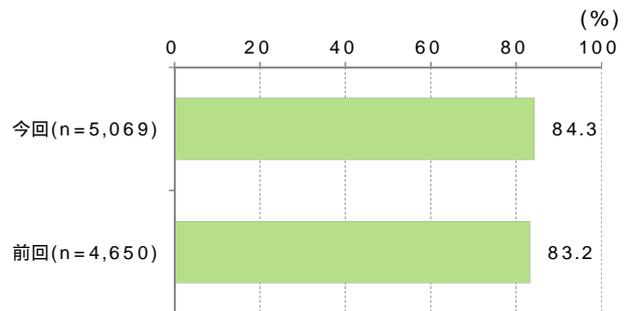
05

地域の中で安心して生活できているか

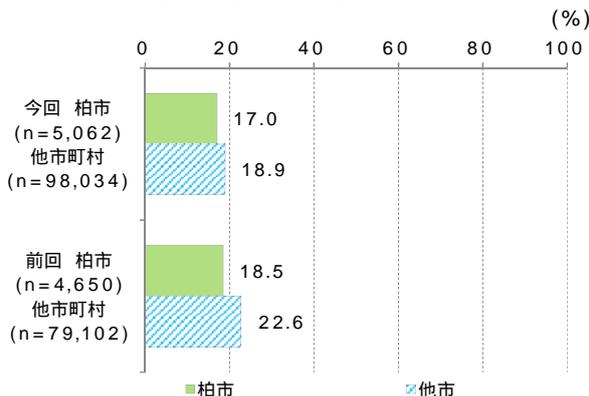
地域の中で安心して生活できていると感じるか聞いたところ、『感じている』（「感じている」、「どちらかといえば感じている」の合計）は84.3%となっています。

前回と比較すると、1.1ポイント増加しています。

地域の中で安心して生活できていると感じるかたの割合



フレイルありと判定されたかたの割合



06

フレイルあり割合

フレイルありと判定されたかた（基本チェックリスト8項目以上）の割合は、17.0%となっています。

他市町村と比較すると、今回・前回ともに柏市が少なくなっています。

また前回と比較すると、1.5ポイント少なくなっています。

07

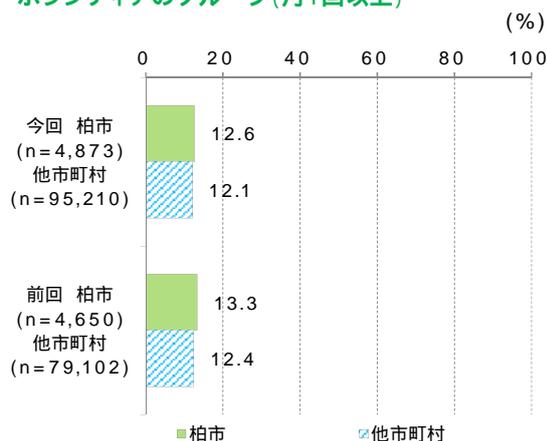
〔社会参加〕

会・グループに月1回以上参加しているかたの割合は、スポーツ関係のグループやクラブが30.4%、趣味関係のグループが29.9%、ボランティアのグループが12.6%、学習・教養サークルが9.2%となっています。

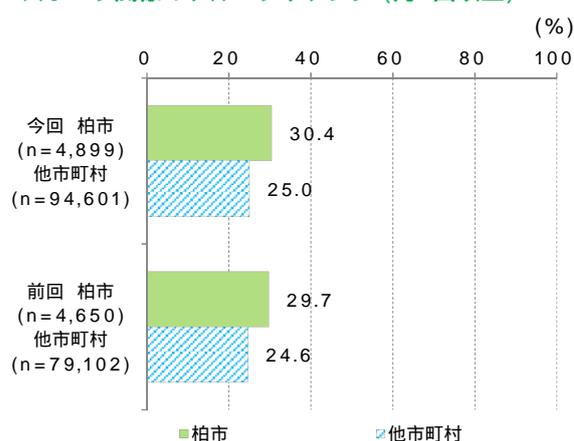
他市町村と比較すると、すべての会・グループで今回・前回ともに柏市が多くなっています。特にスポーツ関係のグループやクラブについて、今回調査では他市町村に比べて5.4ポイント多くなっています。

前回と比較すると、ボランティア、趣味関係、学習・教養サークルでは、月1回以上参加しているかたの割合は少なくなっています。特に趣味関係のグループでは、前回調査より4.1ポイント少なくなっており、新型コロナウイルス感染症の影響などが考えられます。

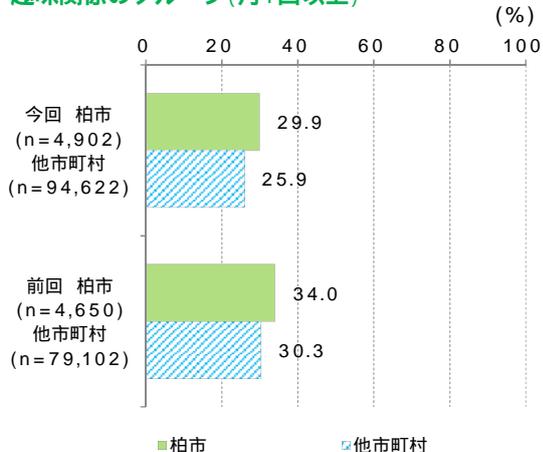
ボランティアのグループ(月1回以上)



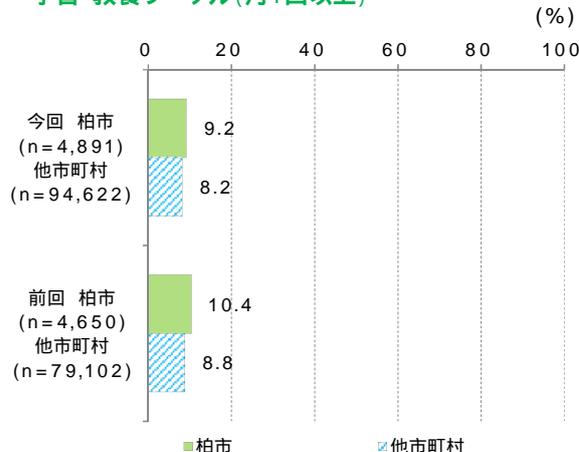
スポーツ関係のグループやクラブ(月1回以上)



趣味関係のグループ(月1回以上)



学習・教養サークル(月1回以上)



基礎調査

(1) 調査目的

調査名	調査目的
在宅介護実態調査	「要介護者の在宅生活の継続」や「介護者の就労の継続」に有効な介護サービスの在り方を検討することを目的として実施
介護サービス事業所調査	介護サービス事業所の実態や取組みを把握することで、各種取組みの効果的な推進に向けた検討を行うことを目的として実施
ケアマネジャー調査	ケアマネジャーの就労実態等の把握や、今後充実が必要と考えるサービス等の意見の確認を目的として実施
介護サービス従事者調査	介護現場で働く職員の就労状況等の実態を把握することで、各種取組みの効果的な推進に向けた検討を行うことを目的として実施

(2) 調査の種類・対象者

調査名	調査対象
在宅介護実態調査	柏市内で在宅生活をしている要支援・要介護者のうち無作為に抽出したかた
介護サービス事業所調査	柏市内の介護サービス提供事業所
ケアマネジャー調査	柏市介護支援専門員協会に加入し、介護支援専門員として従事している会員
介護サービス従事者調査	柏市内の介護サービス事業所の従事者(病院、診療所、歯科医院、薬局を除く)

(3) 調査方法

調査名	調査方法
在宅介護実態調査	調査地域: 柏市全域 調査方法: 郵送配布 - 郵送回収 調査期間: 令和4年11月30日から令和4年12月23日
介護サービス事業所調査	調査地域: 柏市全域 調査方法: 郵送配布 - 郵送回収 調査期間: 令和4年11月30日から令和5年1月20日
ケアマネジャー調査	調査地域: 柏市全域 調査方法: 郵送配布 - 郵送回収 調査期間: 令和4年11月30日から令和5年1月20日
介護サービス従事者調査	調査地域: 柏市全域 調査方法: インターネットのアンケートページへの入力による回答 調査期間: 令和4年11月30日から令和5年1月20日

(4) 回収状況

調査名	発送数	回収数	回収率	有効回答数	有効回答率
在宅介護実態調査	1,271	737	58.0%	733	57.7%
介護サービス事業所調査	580	327	56.4%	327	56.4%
ケアマネジャー調査	370	276	74.6%	276	74.6%
介護サービス従事者調査	—	—	—	607	—

介護サービス事業所調査 対象事業所の従事者

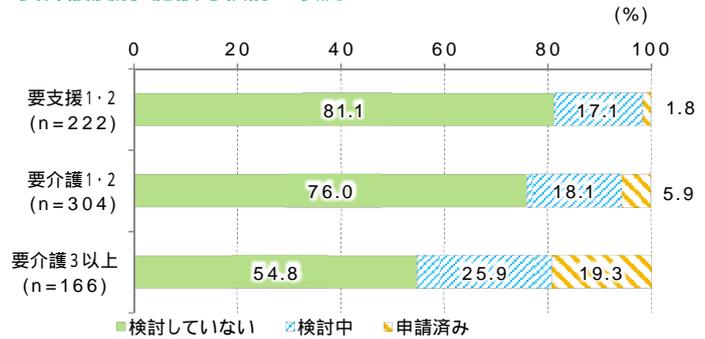
在宅介護実態調査

01

要介護者の在宅生活の継続

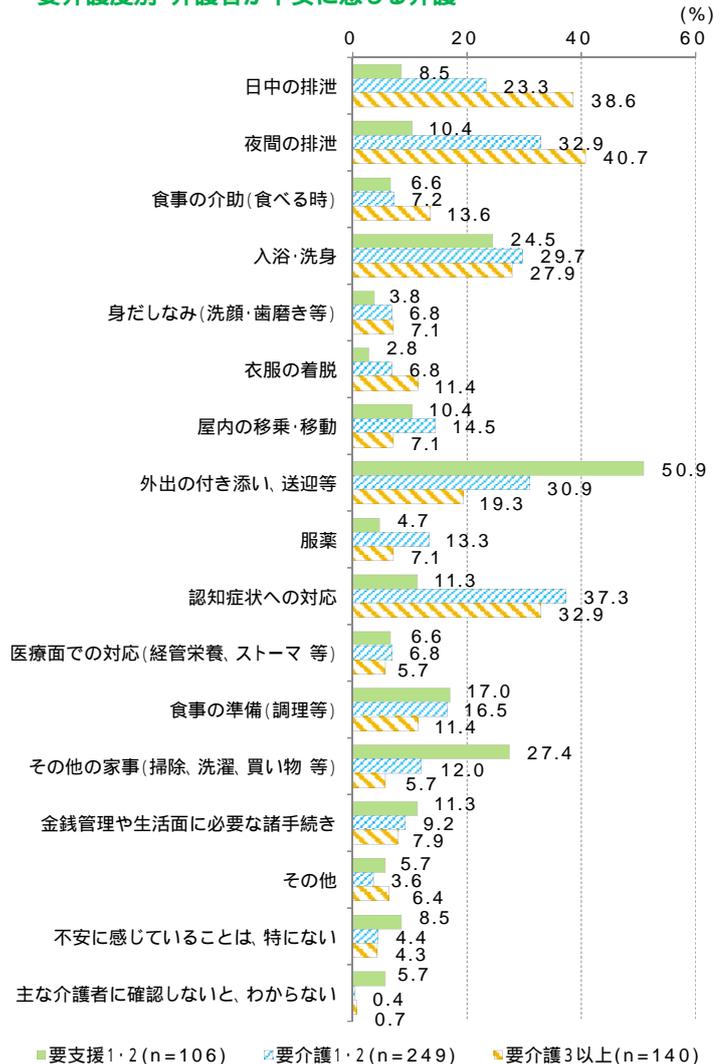
施設等への入所・入居の検討状況について、要介護3以上では「検討していない」が54.8%、「検討中」が25.9%、「申請済み」が19.3%となっており、現時点では約5割のかたが在宅生活の継続を希望していると推察されます。また、要介護3以上の「申請済み」の割合は前回調査時（令和元年12月）の7.4%から大幅に増加しています。

要介護度別・施設等検討の状況

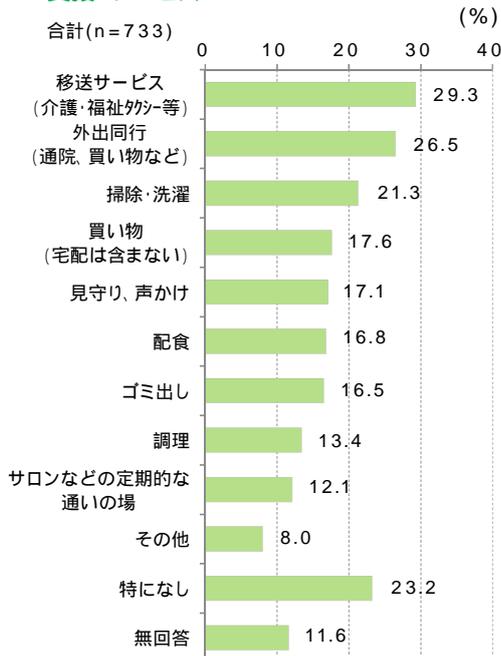


主な介護者のかたが不安に感じる介護について、要介護3以上では特に「日中の排泄」「夜間の排泄」「認知症状への対応」が多く、いずれも3割以上のかたが不安に感じています。これらに係る介護不安をいかに軽減していくかが、在宅生活継続のポイントになると考えられます。

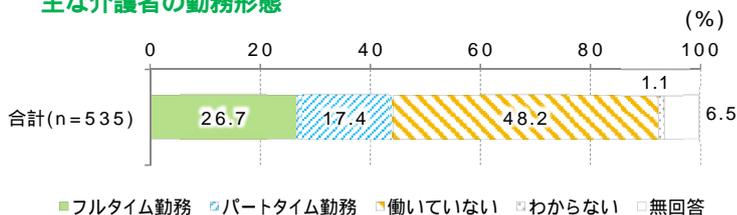
要介護度別・介護者が不安に感じる介護



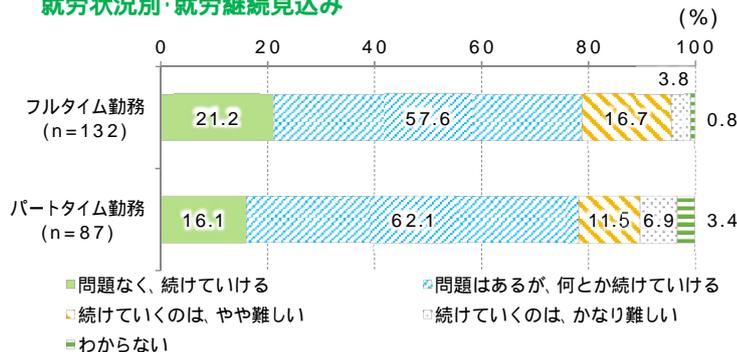
在宅生活の継続に必要と感じる支援・サービス



主な介護者の勤務形態

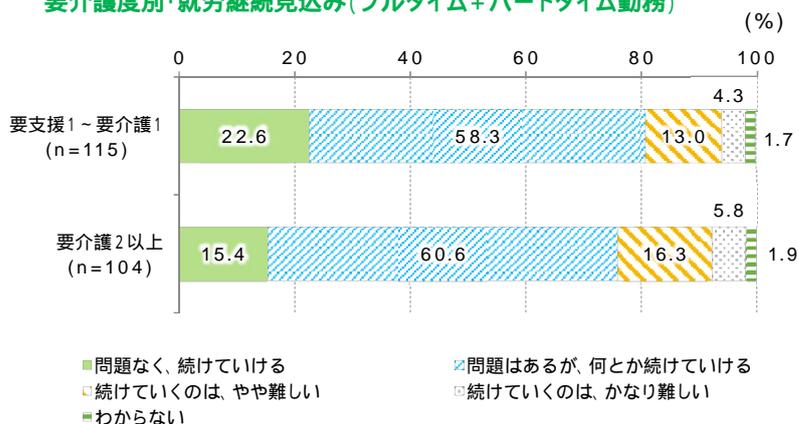


就労状況別・就労継続見込み



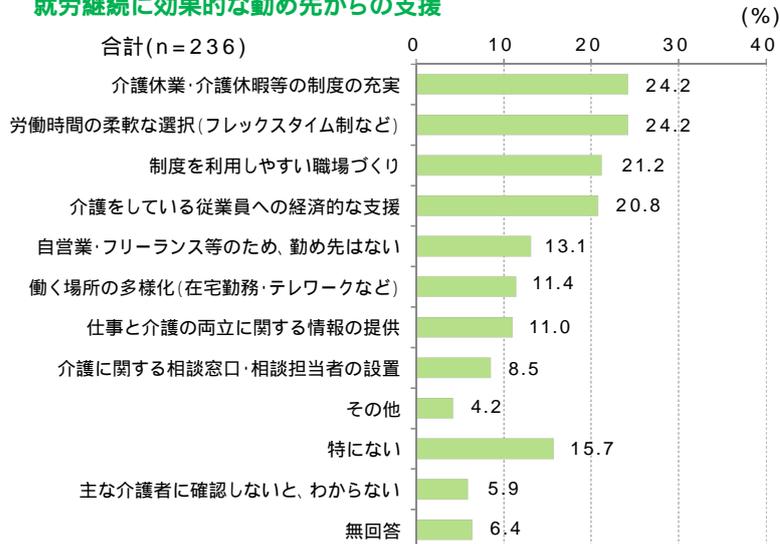
就労継続見込みについて、『続けていくのは難しい』（「続けていくのは、やや難しい」「続けていくのは、かなり難しい」）は、要支援1～要介護1が17.3%、要介護2以上が22.1%となっています。要介護度が高いほうが、就労継続が困難と考えている人が多いことがうかがえます。

要介護度別・就労継続見込み(フルタイム+パートタイム勤務)



就労継続に効果的な勤め先からの支援について、「介護休業・介護休暇等の制度の充実」「労働時間の柔軟な選択（フレックスタイム制など）」が24.2%で最も多く、次いで「制度を利用しやすい職場づくり」が21.2%、「介護をしている従業員への経済的な支援」が20.8%となっています。

就労継続に効果的な勤め先からの支援



02

【介護者の就労継続】

主な介護者の勤務形態は、フルタイム勤務が26.7%、パートタイム勤務が17.4%、働いていない介護者が48.2%となっています。

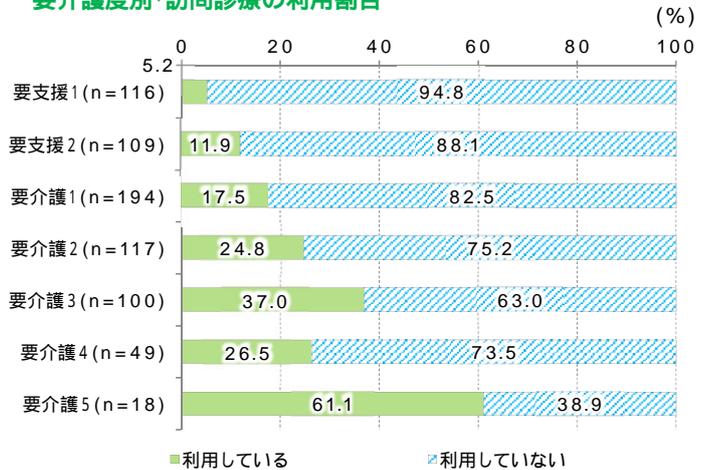
介護者の就労継続見込みについて、フルタイム、パートタイムともに「問題はあるが、何とか続けていける」が最も多くなっています。

03

医療ニーズの高い在宅療養者を支える支援・サービスの提供体制

要介護度別の訪問診療の利用割合をみると、要介護度が高いほど訪問診療の利用割合が多い傾向がみられます。介護度が重度なかたにおける在宅医療の重要性が示唆されます。

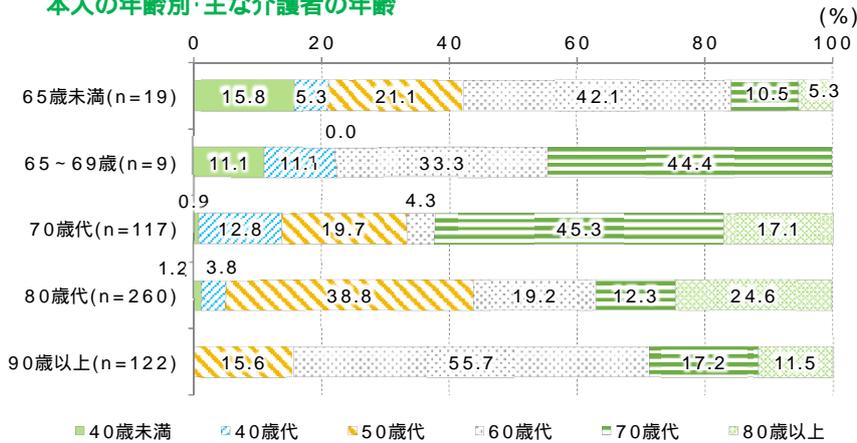
要介護度別・訪問診療の利用割合



04

介護を受ける本人と介護者の年齢

本人の年齢別・主な介護者の年齢



本人の年齢で最も人数が多かった80歳代(260人)をみると、主な介護者の年齢は50歳代が38.8%と最も多く、次いで80歳以上が24.6%となっています。また、70歳代(12.3%)と80歳以上を合わせると4割弱を占めており、本市においても老老介護の状況がみられます。

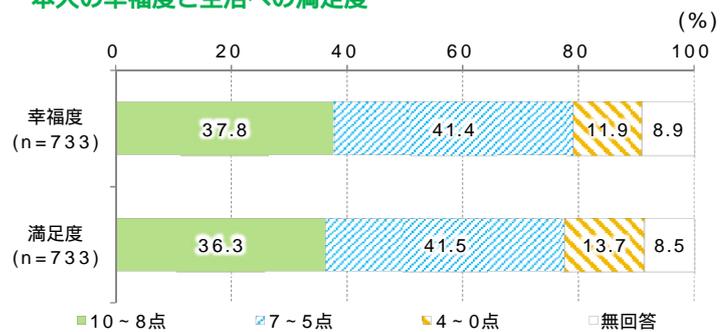
05

幸福度と生活への満足度

本人の幸福度について、「幸せ(10~8点)」は37.8%となっています。

本人の生活への満足度について、「満足している(10~8点)」は36.3%となっています。

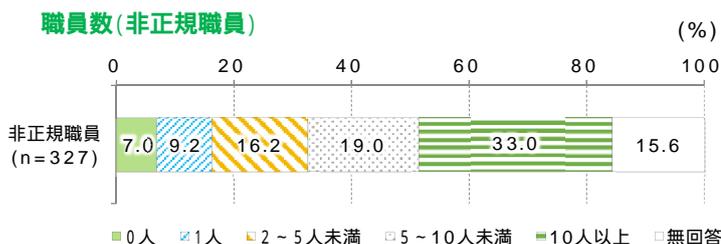
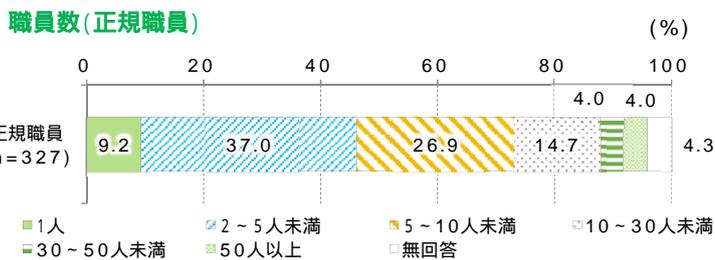
本人の幸福度と生活への満足度



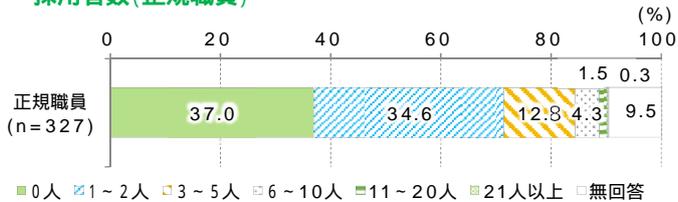
介護サービス事業所調査

01 事業所概要

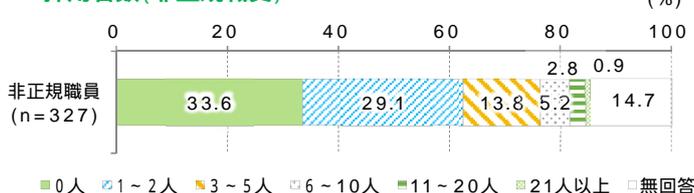
正規職員数は「1人」が事業者全体の9.2%、「5人未満」が46.2%と、少ない正規職員で運営する事業所が多く、一方で非正規職員数が「10人以上」との回答が33.0%となっています。



採用者数(正規職員)



採用者数(非正規職員)

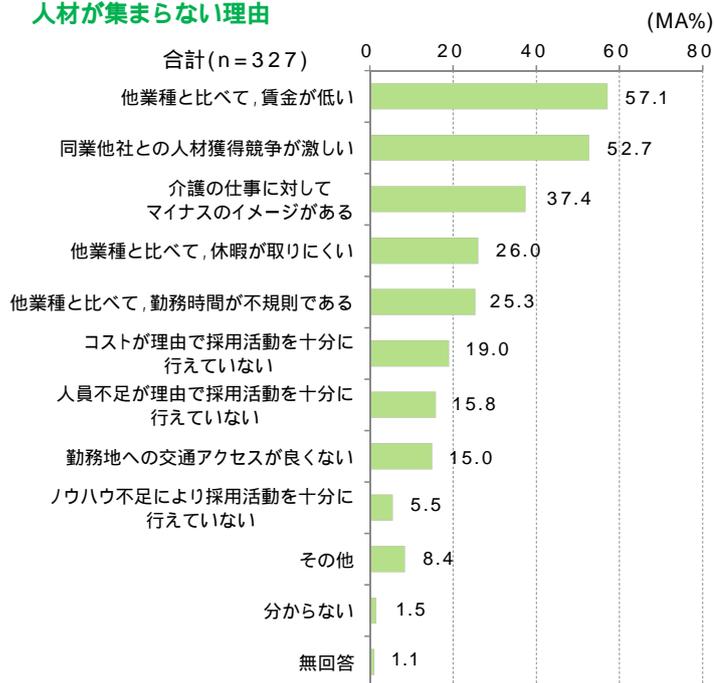


02 人材採用

令和3年度の採用状況を見ると、「0人」は正規職員では37.0%、非正規職員では33.6%となっています。また、正規・非正規職員いずれも採用していない事業所は69事業所で、全体の2割を超えています。

8割を超える事業所が、人材が集まらないと感じています。集まらない理由として、「他業種と比べて、賃金が低い」(57.1%)、「他業種と比べて、休暇が取りにくい」(26.0%)、「他業種と比べて、勤務時間が不規則である」(25.3%)といった、他業種と比べた条件面をあげる声が多くなっています。また、「同業他社との人材獲得競争が激しい」(52.7%)、「介護の仕事に対してマイナスのイメージがある」(37.4%)などが多く挙げられています。

人材が集まらない理由



03

〔介護職員の離職状況〕

退職者数では、正規職員、非正規職員ともに、「0人」が多くなっています。年間の採用者数と退職者数から1年間の雇用者数の増減をみると、正規職員では33.0%、非正規職員では26.9%の事業者で増加しています。

離職の理由として考えられるものでは、「他業種と比べて、賃金が低い」(21.4%)、「職場の人間関係に不満がある」(19.9%)、「同業他社で働きたい」「その他」(19.6%)が多くなっています。

職員の増減(正規雇用者・非正規雇用者)

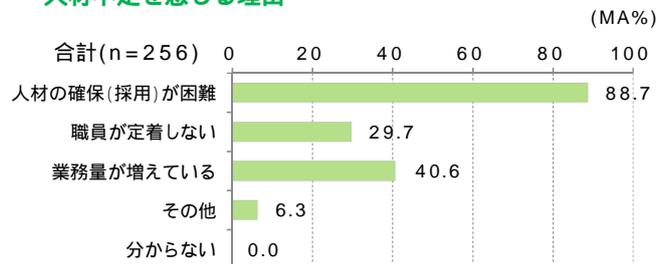
(n=327)

正規雇用者 (採用者数 - 退職者数)			非正規雇用者 (採用者数 - 退職者数)		
増減	事業者数	割合	増減	事業者数	割合
増加	108	33.0	増加	88	26.9
増減なし	126	38.5	増減なし	125	38.2
減少	39	11.9	減少	43	13.1
無回答	54	16.5	無回答	71	21.7

事業所の人材不足を感じているか



人材不足を感じる理由



04

〔介護職員不足〕

事業所の「人材不足を感じている」との回答が78.3%を占め、人材不足を感じる理由について、「人材の確保(採用)が困難」が88.7%と多くなっています。その他の意見では、「新規依頼に配置できるヘルパーがいない」や、「シフトが埋まらない」という人材不足の状況を訴える意見が多数みられました。

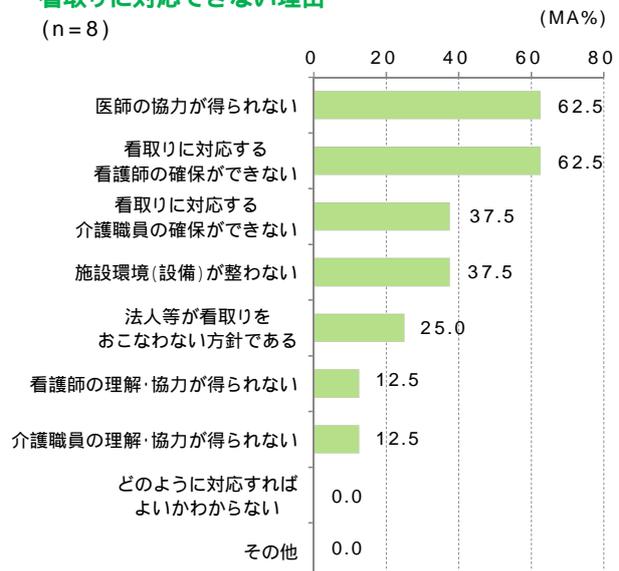
05

〔看取りについて〕

事業所での最期(看取り)について、79.5%の入所施設が「対応できる」と回答しました。20.5%の施設が「対応できない」と回答した理由としては、「医師の協力が得られない」「看取りに対応する看護師の確保ができない」が最も多くなっています。

看取りに対応できない理由

(n=8)



ケアマネジャー調査

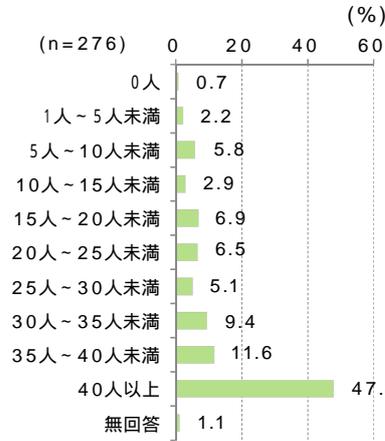
01

ケアマネジャー本人の状況

ケアマネジャー1人当たりで担当している利用者数は平均37.1人(市内利用者は平均30.3人)となっており、前回調査では平均34.6人(市内利用者は平均29.4人)、前々回調査では平均33.1人(市内利用者28.7人)あったことから、ケアマネジャーの負担が引き続き増加していることがうかがえます。

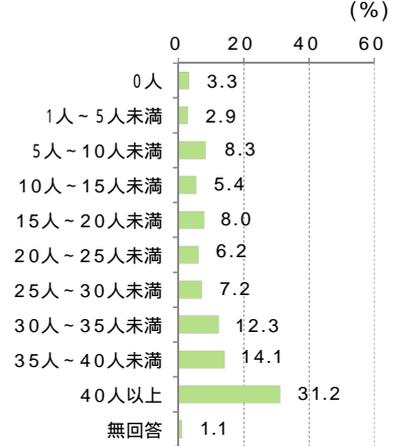
実際に、担当している利用者数について、『負担感を感じている(多すぎと感じる)』(「かなりある」「多少ある」の合計)と回答したケアマネジャーが約6割でした。事務の効率化やケアプランの質の向上に向けた取り組みが必要となっています。

担当利用者数(全体)



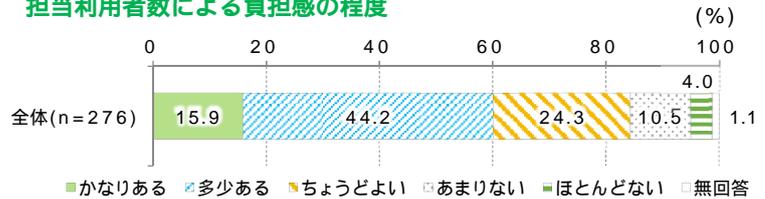
平均	
今回調査	37.1人
前回調査	34.6人
前々回調査	33.1人

担当利用者数(柏市内)



平均	
今回調査	30.3人
前回調査	29.4人
前々回調査	28.7人

担当利用者数による負担感の程度



02

柏市内の介護サービス等の充足状況

充足させるべきと感じるサービス

介護サービス	割合	介護予防サービス	割合
定期巡回・随時対応型訪問介護看護	58.0	介護予防通所リハビリテーション	41.7
訪問介護	57.2	介護予防支援	41.3
夜間対応型訪問介護	56.9	介護予防訪問リハビリテーション	25.7
認知症対応型通所介護	51.8	介護予防認知症対応型通所介護	25.7
看護小規模多機能型居宅介護	46.0	介護予防短期入所療養介護	21.7

総合事業サービス	割合	在宅福祉サービス	割合
訪問介護相当サービス	48.9	送迎費助成	38.8
介護予防ケアマネジメント	43.8	配食サービス費助成	34.1
訪問型サービスD(移動支援)	42.4	介護用品(紙おむつ)給付	33.0
訪問型サービスA(緩和した基準によるサービス)	39.9	居宅サービス利用者負担金助成	29.7
訪問型サービスB(住民主体による支援)	37.0	生活支援短期宿泊	27.2

「定期巡回・随時対応型訪問介護看護」「訪問介護」「夜間対応型訪問介護」「認知症対応型通所介護」については、半数を超えるケアマネジャーが充足させるべきと感じています。

また、充足させるべきと感じる介護予防サービスは「介護予防通所リハビリテーション」「介護予防支援」が4割を超えています。介護予防支援の回答が多く、担当利用者数による負担を感じているかたも多いことから、人材確保や事務の軽減などの対策が重要と考えられます。

03

【インフォーマルなサービス】

プランに位置付けたことがあるインフォーマルなサービスについて、上位は「ごみ出し」「外出時の付き添い(通院等)」「草取り・剪定」「サロン・通いの場」となっています。

現在不足していると感じるサービス上位も、同様のものとなっています。

インフォーマルサービスについて

プランに位置付けたことがあるサービス	割合
ごみ出し	67.2
外出時の付き添い(通院等)	50.4
草取り・剪定	48.3
サロン・通いの場	45.8
洗濯・部屋の掃除	34.0
買い物	33.6

現在不足していると感じるサービス	割合
外出時の付き添い(通院等)	52.5
ごみ出し	45.8
サロン・通いの場	40.3
草取り・剪定	39.1
話し相手	39.1
声かけ・見守り	38.2

04

【地域包括支援センター、関係機関との連携状況】

地域包括支援センターとの連携状況(連携の内容別)

とれている+まあとれている計	割合
要支援者等の計画作成(実施しているかたのみ)	79.0
困難事例への対応	72.1
資質向上に向けた研修	69.5
虐待事例の早期発見と報告	62.0
地域や関係機関との調整・ネットワーク作り	55.1
医療機関との調整	42.0

関係機関との連携状況(機関別)

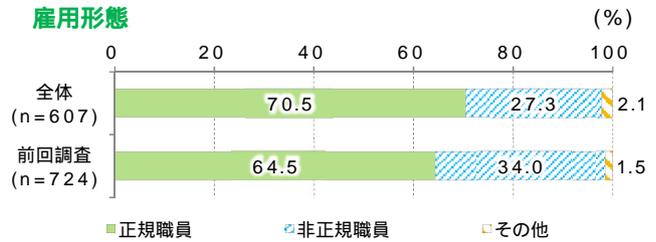
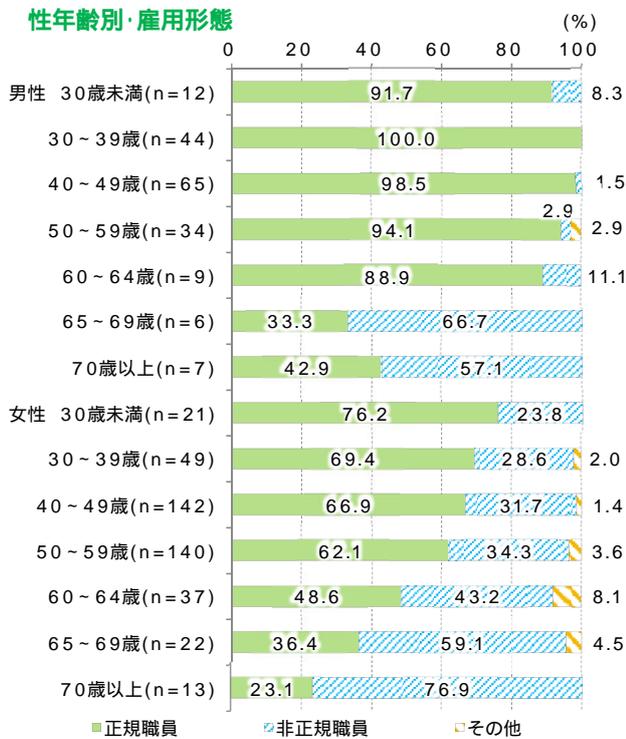
とれている+まあとれている計	割合
サービス提供事業者	93.5
地域包括支援センター職員	81.9
医療機関(MSW)	66.0
医療機関(主治医)	35.5
柏地域医療連携センター職員	28.6
社会福祉協議会・地域支えあい推進員	27.2
柏地域医療連携センター職員以外の柏市役所職員	25.4

地域包括支援センターとの連携が比較的とれている内容では、「要支援者等の計画作成(実施しているかたのみ)」「困難事例への対応」「資質向上に向けた研修」の順に多くなっています。一方、「医療機関との調整」ではとれていると回答した割合が半数以下になっています。制度面が充実してきている一方、様々なニーズを併せ持つ高齢者が増加していることから、地域や関係機関を巻き込んだ調整やネットワークづくりがより重要になっています。

また、業務を実施するうえで、関係者との連携がとれていないと回答したかたが挙げた理由としては、「なんとなく苦手意識がある」(27.9%)、次いで「連携する必要があるかわからない」(27.3%)、「機関の役割や機能がわからない」(21.8%)の順に多くなっています。関係機関の機能や支援内容について周知していくことが重要と考えられます。

介護サービス従事者調査

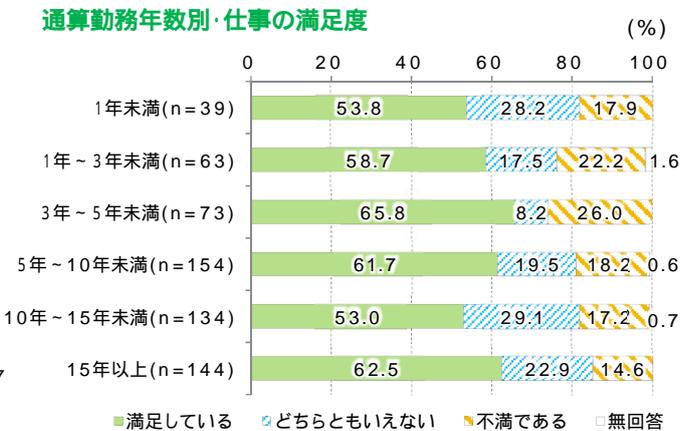
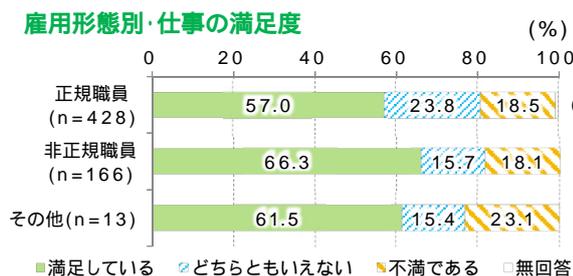
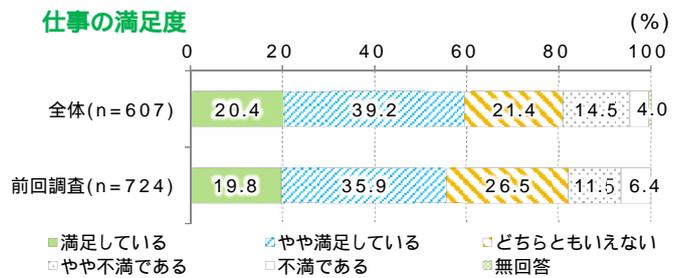
01 介護サービス従事者の状況



雇用形態について、「正規職員」と回答したかたが70.5%で最も多く、前回調査(64.5%)と比べると6ポイント多くなっています。また、男性の64歳以下では約9割が「正規職員」であるのに対し、女性では年齢が上がるとともに「正規職員」が少なくなり、正規職員が最も多い年代は30歳未満(76.2%)となっています。65歳以上では男女ともに「非正規職員」のほうが多くなっています。

02 仕事の満足度

現在の仕事の満足度について、「やや満足している」(39.2%)、次いで「どちらともいえない」(21.4%)、「満足している」(20.4%)の順に多く、前回調査と比べて、満足しているかたの割合が増加しています。また、正規職員より非正規職員で満足度が高く、通算勤務年数が3年~5年未満では、「どちらともいえない」が少なくなり、意見が分かれている傾向がみられます。仕事の習得度が上がるにつれて業務負荷が上昇し、満足度に差が出ている可能性が考えられます。

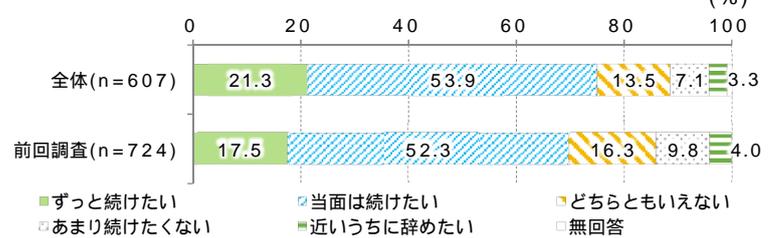


03

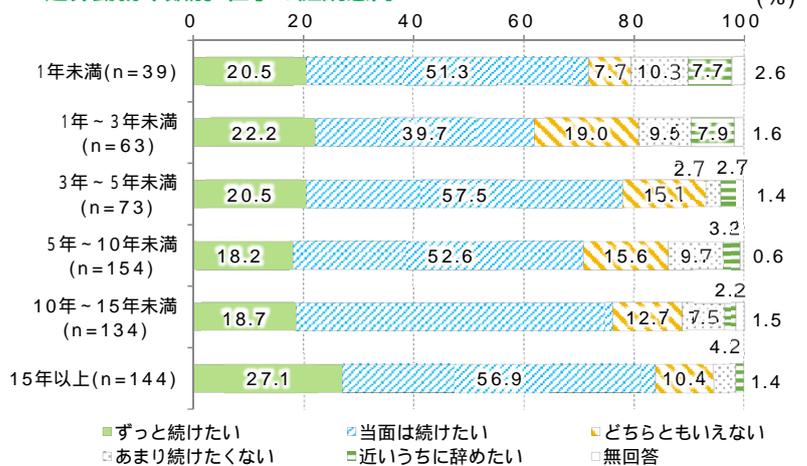
【仕事の継続意向】

現在の職種での仕事の継続意向について、「当面は続けたい」が53.9%で最も多く、次いで「ずっと続けたい」(21.3%)、「どちらともいえない」(13.5%)となっており、前回調査と比べて、仕事の継続意向が高くなっています。通算勤務年数が短い人ほど退職意向が強く、「あまり続けたくない」「近いうちに辞めたい」を合わせると、1年未満(18.0%)、1~3年未満(17.4%)では多くなっています。また、仕事に不満を持っている人の約4割に退職意向がみられます。

通算勤務年数別・仕事の継続意向



通算勤務年数別・仕事の継続意向



04

【意向に沿った支援】

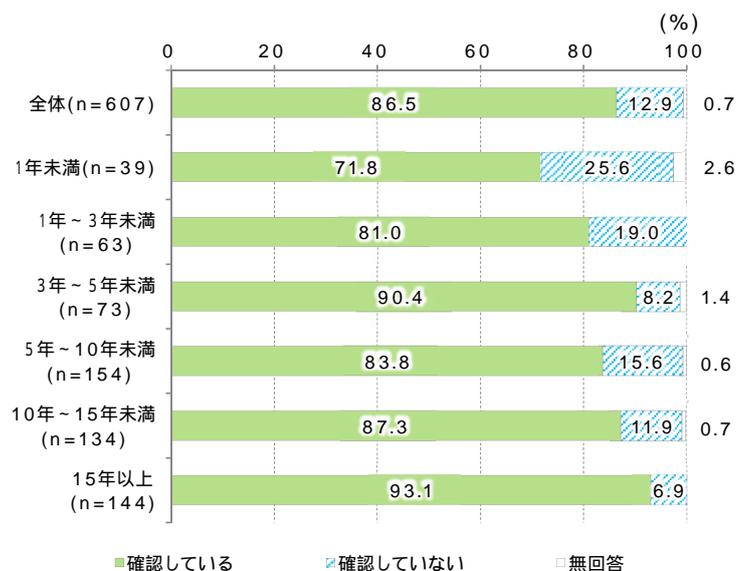
サービスを提供する本人・家族の意向確認について、「確認している」が86.5%であったのに対し、「確認していない」が12.9%みられます。特に通算勤務年数が1年未満では、25.6%と多くなっています。

確認していない理由について、「意向確認は自分の役割ではないから」(44.9%)、次いで「意向を確認する機会・タイミングがなかったから」(38.5%)、「意向を確認する時間が作れなかったから」(16.7%)が上位となっています。

また、確認した本人・家族の意向を多職種と共有しているのかについては、「共有している」(65.9%)、「常に共有している」(23.8%)を合わせた約9割が共有しています。

多職種と共有していない理由については、「業務が多忙だから」(54.7%)、次いで「共有するツールがないから」(49.1%)、「その他」(17.0%)の順に多くなっています。

通算勤務年数別・家族、本人の意向確認の有無

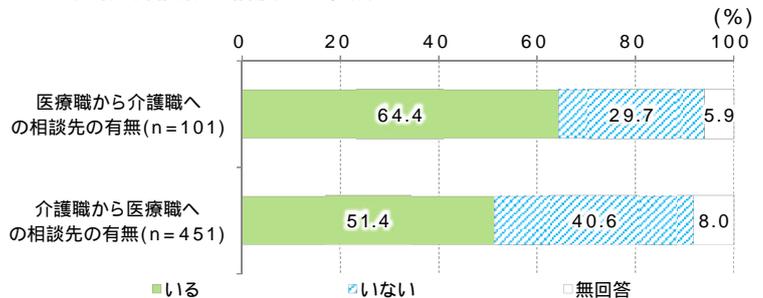


05

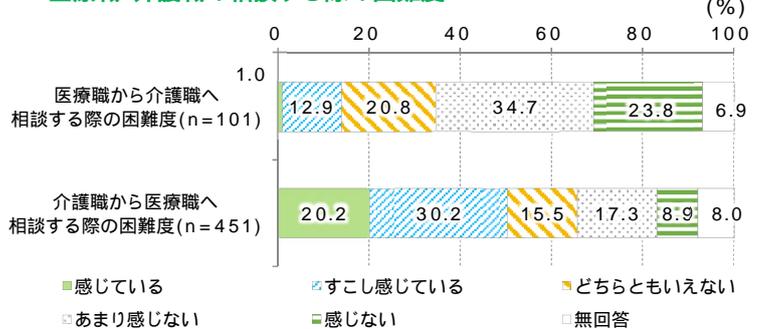
〔医療・介護連携〕

気兼ねなく相談できる介護職がいる医療職は64.4%、一方、気兼ねなく相談できる医療職がいる介護職は51.4%となっています。医療職から介護職へ相談する際の困難度は、「あまり感じない」が34.7%で最も多く、次いで「感じない」(23.8%)、「どちらともいえない」(20.8%)となっています。一方、介護職から医療職へ相談する際の困難度は、「すこし感じている」が30.2%で最も多く、次いで「感じている」(20.2%)、「あまり感じない」(17.3%)となっています。介護職から医療職への相談では、医療職から介護職への相談に比べ、敷居が高いと感じる割合が多いことがうかがえます。

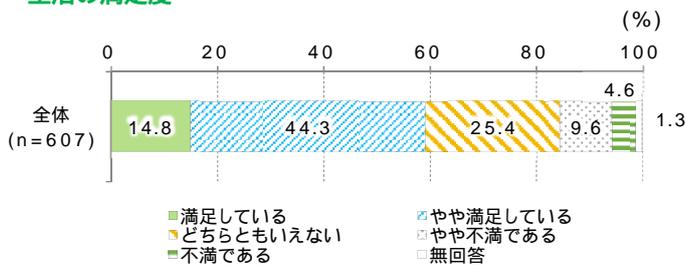
医療職・介護職の相談先の有無



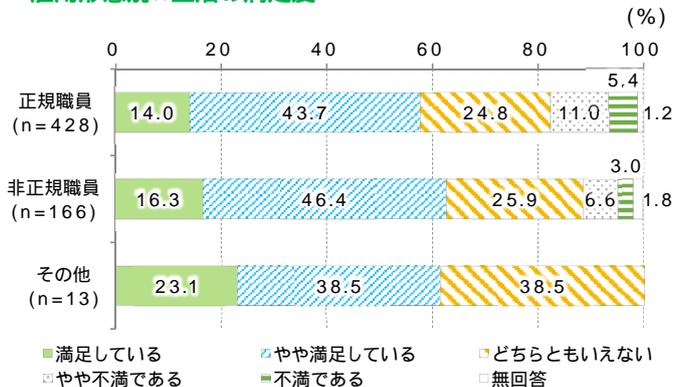
医療職・介護職の相談する際の困難度



生活の満足度



雇用形態別×生活の満足度



06

〔生活の満足度〕

現在の生活の満足度について、「満足している」(14.8%)、「やや満足している」(44.3%)を合わせた59.1%が満足しています。一方、「やや不満である」(9.6%)、「不満である」(4.6%)を合わせた14.2%が不満であるという結果になっています。

正規職員では、「満足している」が14.0%、「やや満足している」が43.7%と他の区分に比べて少なくなっています。

勤務年数が3年以上の人は「満足している」「やや満足している」が多い傾向があるほか、仕事の満足度の高い人では、生活の満足度も高い傾向にあり、「満足している」(23.8%)、「やや満足している」(58.0%)を合わせると8割を超えています。

その他参考調査

(1) 調査概要

調査名	調査概要	調査対象者
医療従事者満足度調査	調査方法: インターネット調査 調査期間: 令和4年11月16日から 令和5年1月9日	在宅医療に関わる医療従事者
介護保険利用者と家族への満足度調査	調査方法: 郵送配布 - 郵送回収 調査期間: 令和4年11月から 令和4年12月9日	介護保険サービスを利用しているかた

(2) 回収状況

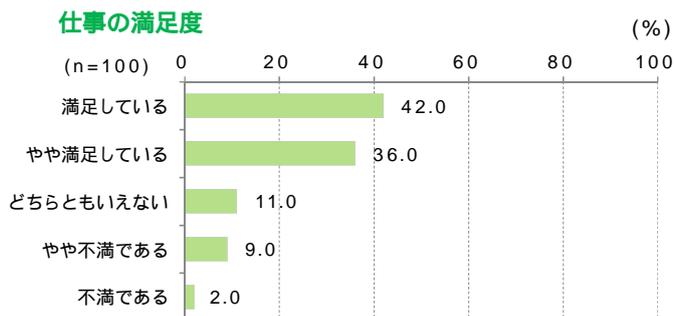
調査名	発送数	有効回答数	有効回答率	
医療従事者満足度調査	対象者約366人	100名	27.3%	
介護保険利用者と家族への満足度調査	本人	3,169件	1,185件	37.4%
	家族	3,169件	1,555件	49.1%

医療従事者満足度調査

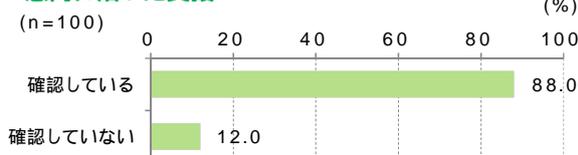
01

仕事への満足度

現在の仕事への満足度について、『満足している』（「満足している」「やや満足している」の合計）は78.0%となっています。



意向に沿った支援



本人・家族の意向を多職種と共有しているか



02

意向に沿った支援

本人・家族の意向を確認している人は88.0%となっています。

また、『本人・家族の意向を多職種と共有しているかた』（「常に共有している」「共有している」の合計）は81.8%となっています。

03

相談しやすい専門職

相談しやすい専門職について、「医療職の同職種」が53.0%で最も多く、次いで「医療職の他職種」が25.8%、「介護職」が9.8%となっています。「いない」は11.4%となっています。

相談しやすい専門職

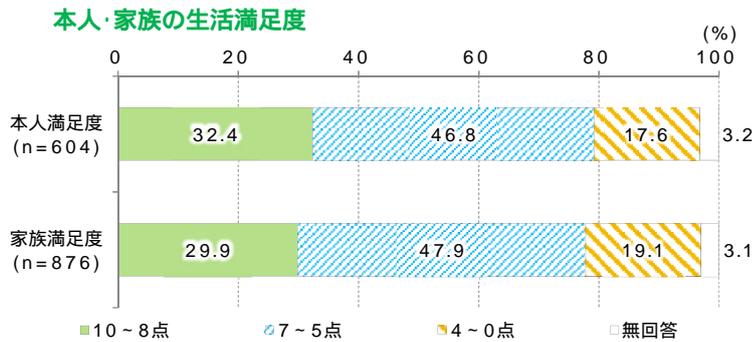


介護保険利用者と家族への満足度調査

在宅医療利用者に限定した集計結果

01

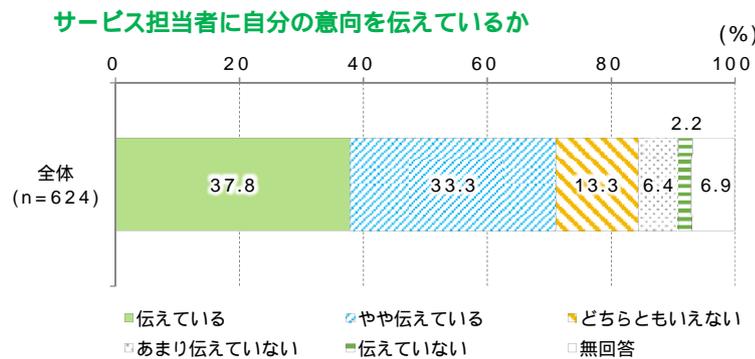
生活への満足度(本人, 家族)



生活への満足度について、「満足している(10~8点)」は介護保険サービスを受けている本人が32.4%、家族が29.9%となっています。回答者の中では、家族の生活満足度は介護保険サービスを受けている本人に比べてやや低い状況がみられます。

02

サービス担当者に自分の意向を伝えているか

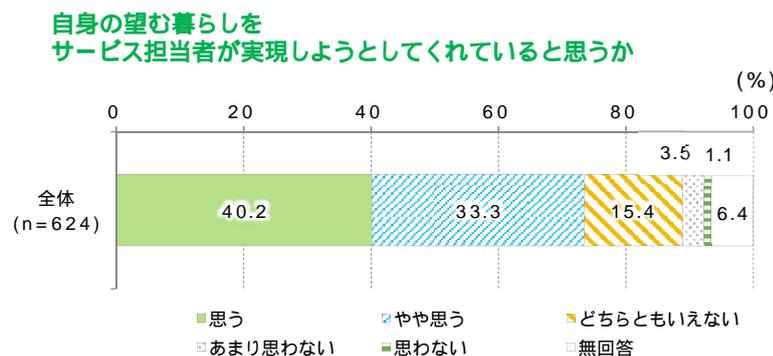


サービス担当者に自分の意向を伝えているかについて、『伝えている』(「伝えている」、「やや伝えている」の合計)は71.1%となっています。

回答者の約7割のかたが、サービス担当者に自分の意向を伝えられている状況がわかります。

03

自身の望む暮らしをサービス担当者が実現しようとしてくれていると思うか



自身の望む暮らしをサービス担当者が実現しようとしてくれていると思うかについて、『思う』(「思う」、「やや思う」の合計)は73.5%となっています。

サービス担当者に自分の意向を「伝えている」と回答した人の割合と、サービス担当者が自身の望む暮らしを実現しようとしてくれていると「思う」と回答した人の割合は同程度となっています。